

まちのわだい

あなたの周りで起きた出来事や
楽しい話題、イベントなどの身近な
情報をお待ちしています。

▷ 問い合わせ 広報情報係
(☎223・3569)

台湾総領事が芦屋町を表敬訪問

3月14日 台湾×芦屋町

台北駐福岡経済文化弁事処の陳銘俊総領事夫妻が芦屋町を訪れ、台湾と芦屋町との今後の交流など、波多野町長と活発な意見交換を行いました。また、洞山や夏井ヶ浜はまゆう公園といった観光名所を巡り、芦屋釜の里では、研究協定を結んでいる台湾中央研究院の話や中国古代青銅器と芦屋釜のつながりの話などが出て、お互いの文化を再認識する機会となりました。



冊子「芦屋学」完成！読んでみてね！

3月17日 芦屋町×九州共立大学連携事業「芦屋学」冊子贈呈式

九州共立大学との包括的地域連携協定の一環で、町の歴史や魅力を掲載した冊子「芦屋学」を九州共立大学が作成し、100冊が町に贈呈されました。これは、同大学の学生が町から提供された資料や情報をもとに、町の歴史や地域で育まれた文化、風習などを盛り込んだ地域情報冊子として編集したものです。町内の公民館や図書館、小中学校などで読むことができます。

初めての古代文字の習字教室

3月11日 芦屋東小学校区 祖父母学級×九州女子大学

九州女子大学との包括的地域連携協定の一環で、古木誠彦准教授による書道教室が行われました。生徒は芦屋東小学校区の祖父母学級の皆さんです。台湾の故宫博物院の所蔵である青銅器に彫られた文字を見本にして、力を入れずにゆるやかな絵を描くように筆を走らせます。参加者は「物の形から文字へと変化していったことがわかり、一文字ごとに書のおもしろさが伝わってきた」「書くうちにだんだん楽しくなり、もっと書きたくなった」と話していました。



高崎武子さん



いつまでもお元気で

満 100 歳の誕生日、おめでとうございます

高崎武子さん(中ノ浜)と吉田節子さん(正門町)が満 100 歳を迎え、町からお祝い状などが贈られました。

高崎さんは、結婚を機に芦屋町に移り住み、指物大工の夫と一緒に 3 人の男の子を育てました。昭和 35 年ごろから 20 年近く、妹と一緒に中ノ浜で千鳥食堂を営んでいました。料理も上手で子どもたちに大評判だったとのこと。引退後は夫と一緒に県内外のゲートボールの試合に参加するなど、活発にスポーツを楽しんでいました。最近、趣味のぬりえを楽しんで毎日过着しているそうです。

吉田さんは、父の仕事の関係で、北九州で生まれ育ちました。父の出身が柏原だったので、いつも芦屋町に遊びに来ていて、芦屋育ちと言われる程に。戦後しばらくして正門町へ。趣味は三味線を弾いたり、カラオケを歌ったりすることで、あしや文化祭でも三味線仲間と一緒に演奏を披露していたそうです。また、プロ野球が好きで、今も巨人戦を楽しみにしている、大の巨人軍ファンだと話してくれました。

吉田節子さん



中学校卒業おめでとう！

3月10日 芦屋中学校卒業式

芦屋中学校で卒業式が行われ、123 人の卒業生が巣立ちました。卒業生は、中学 1 年生の 3 学期から新型コロナウイルス感染症対策の影響で臨時休校を経験しています。2・3 年生になっても行事や大会などの多くが中止や縮小になる中、勉強に励み、学友との親交を深め、互いに苦楽を共に過ごした時間を大切にして絆を深めました。それぞれの進路に進む、友との別れをいつまでも惜しんでいました。



※投稿写真を多数掲載しています。